

明るい子 かしい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和6年度 5月号

蕨市中央6-8-25

TEL 442-2672

児童数	(名)
計	383



グリット力を身に付ける～我々大人達ができること～

校長 はらだ たくじ 原田 卓治

いよいよ新学期が本格的にスタートしました。桜の花が満開の中での学級開きとなり、新たな教職員とともに元気に教育活動が始まっています。

ところで、新入学児童が登校してから、6年生が恒例の1年生の支援を行っています。更に、昇降口で6年生が気持ちの良い挨拶をし、登校してきた全児童を迎えています。最上級生がこのように率先して取り組むことで、学校が活性化しています。大いに期待しているところです。

併せて、1年生の教室では、登校後の支度の支援を6年生が精力的に行っています。道具箱への道具のしまい方、ランドセルをロッカーに入れること等、優しく声をかけながら支援しており、1年生も嬉しく感じている様子が伺えます。これを基盤にして、1年生が自立していくことを期待しています。

さて、今年度の学校経営方針の中に、教職員に付けて欲しい力の1つとして、そのトップに「グリット力」を掲げています。(ホームページの校長あいさつでも触れています)「グリット力」は今、世界中の企業等で注目され、社員に求められる重要なスキルの1つになっています。

先日、東京大学客員研究員・医師 柳澤 綾子氏の「グリット」についての記事がありましたので、簡単にご紹介します。氏によると、子どもが「自分は幸せだと思えるためにできること」には答えがあり、その一つが子どもが自分で人生を選択できるようになることだそうです。子どもが自発的に決められるようになると親自身が楽になるだけでなく、子どもの人生が開け、本人の幸福感も高まる。そのように自分で決められる子になるために、成功した人に共通するのが「諦めない心(グリット)」というスキルなのだそうです。

更に、「GRIT(グリット)」を提唱した心理学者でペンシルバニア大学教授のアンジェラ・リー・ダックワース博士は、GRITについて「才能やIQ(知能指数)や学歴ではなく、個人のやり抜く力こそが、社会的に成功を収める最も重要な要素」であり、しかも、「GRITは先天的なものではなく、後天的に育てられる能力である」と述べています。また、スタンフォード大学の社会心理学者キャロル・S・ドゥエック教授の研究によると、「生まれながらおそらく元々持っていたであろう知能の方を褒められて育った子どもは、自分の能力や才能は、元々持っていた先天的能力で、自分の努力によって伸ばせるものではないと考えるようになる。」一方で、「努力した過程や努力する姿勢そのものを褒められて育った子どもは、『何事も懸命に粘り強く頑張ればいつかきっと習得できる』と考えるようになる」と結論づけています。

このことが強く示唆していることは、「グリット力」を身に付けるにあたっては、「元来の才能よりも、目標に向かって努力する過程の重視」ということだと思います。

我々大人が、「子供たちの努力の過程をつぶさに把握し、認めること」、「壁にぶつかったときは、寄り添いながら、子供たちが自己決定できるよう、選択肢を示したり、その長短を大人の目線で示したりしていくこと」、「失敗は悪ではなく、それを乗り越えていくことこそ大事であること」等を教え導くことが、これからの社会を生き抜く子供たちにしてあげられる大事なことなのではないでしょうか。